

12. 健康に関する情報

(1) メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の認知度

問40 メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）とは、「内臓脂肪が蓄積することによって、血圧、血糖が高くなったり、血中の脂質異常を起こしたりして、食事や運動などの生活習慣を改善しなければ、心筋梗塞や脳卒中などが起こりやすくなる状態」のことで、あなたは、この内容を知っていましたか。（○はひとつ）

全体では、「内容を知っていた」が69.4%、「言葉は聞いたことがあるが内容は知らない」が24.9%で、この2つを合わせた《認知している》は94.3%となっている。（図12-1-1）

性別にみると、「内容を知っていた」は、女性（69.9%）が男性（68.8%）を1.1ポイント上回っている。（図12-1-1）

性・年齢別にみると、「内容を知っていた」は、男性50～59歳（77.6%）、女性60～69歳（78.4%）で最も高くなっている。（図12-1-2）

図12-1-1 メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の認知度（全体／性別）

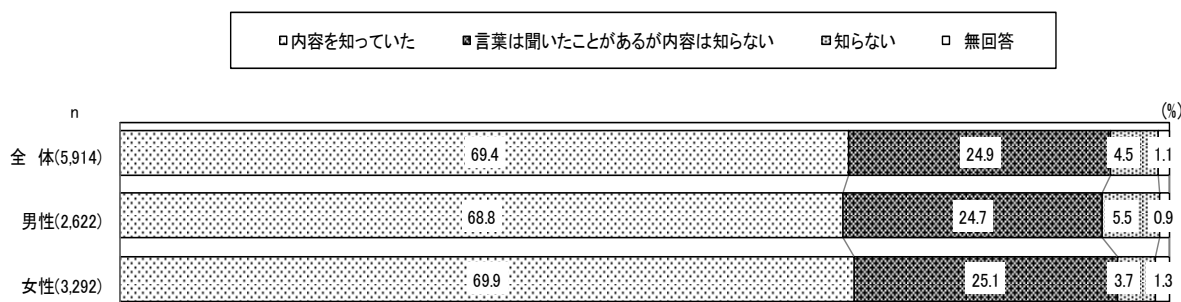
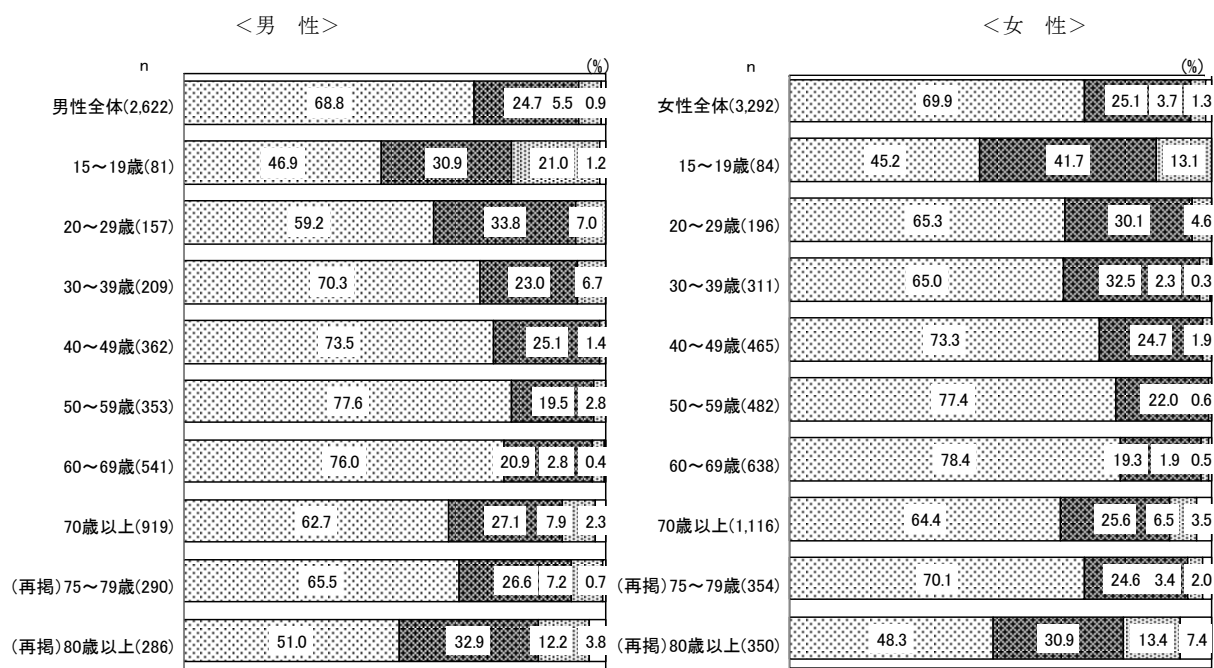


図12-1-2 メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の認知度（性・年齢別）



過去の調査と比較すると、「内容を知っていた」(69.4%)は令和3年度(71.7%)より2.3ポイント減少し、「知らない」(4.5%)は令和3年度(4.0%)と同程度であった。(図12-1-3)

性別で過去の調査と比較すると、「内容を知っていた」は男性(68.8%)が令和3年度(70.8%)より2.0ポイント減少している。また、女性(69.9%)も令和3年度(72.5%)より2.6ポイント減少している。(図12-1-4)

図12-1-3 メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)の認知度(過去の調査との比較)

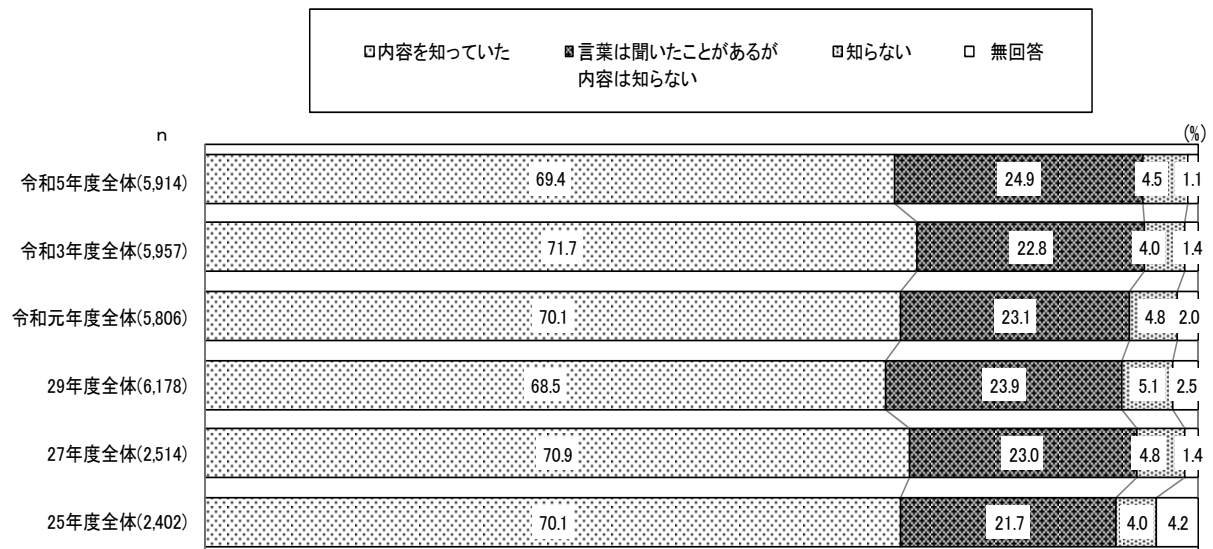
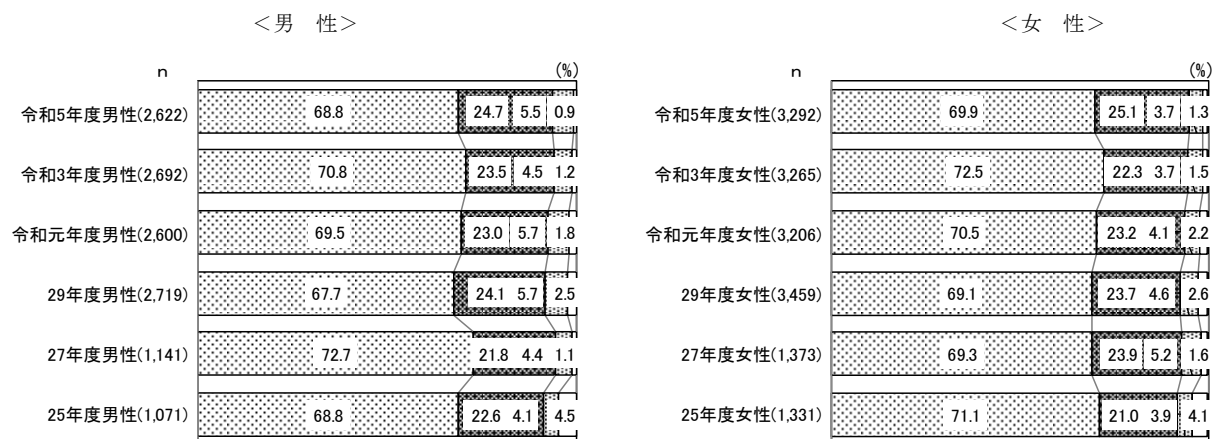


図12-1-4 メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)の認知度(過去の調査との比較・性別)



(2) ロコモティブシンドローム（運動器症候群）の認知度

問41 ロコモティブシンドローム（運動器症候群）とは、「運動器官（筋肉、関節、骨など、人が移動するために使う器官）の障害によって、日常生活で人や道具の助けが必要な状態やその一歩手前の状態」の事です。あなたは、この内容を知っていましたか。
 (○はひとつ)

全体では、「内容を知っていた」が21.3%、「言葉は聞いたことがあるが内容は知らない」が22.4%で、この2つを合わせた《認知している》は43.7%となっている。また、「知らない」は55.2%と最も高くなっている。(図12-2-1)

性別にみると、「内容を知っていた」は、女性（24.0%）が男性（17.9%）より6.1ポイント高くなっている。(図12-2-1)

性・年齢別にみると、「内容を知っていた」は、女性60～69歳（29.6%）、男性70歳以上（20.3%）が最も高くなっている。また、男性15～19歳（8.6%）が最も低くなっている。(図12-2-2)

図12-2-1 ロコモティブシンドローム（運動器症候群）の認知度（全体／性別）

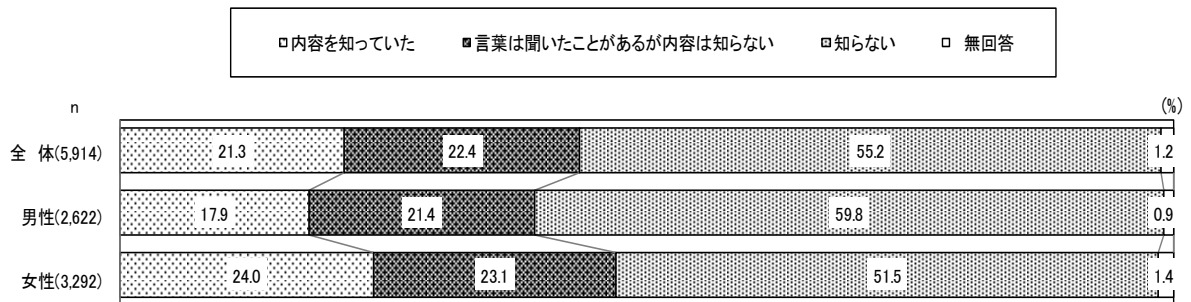
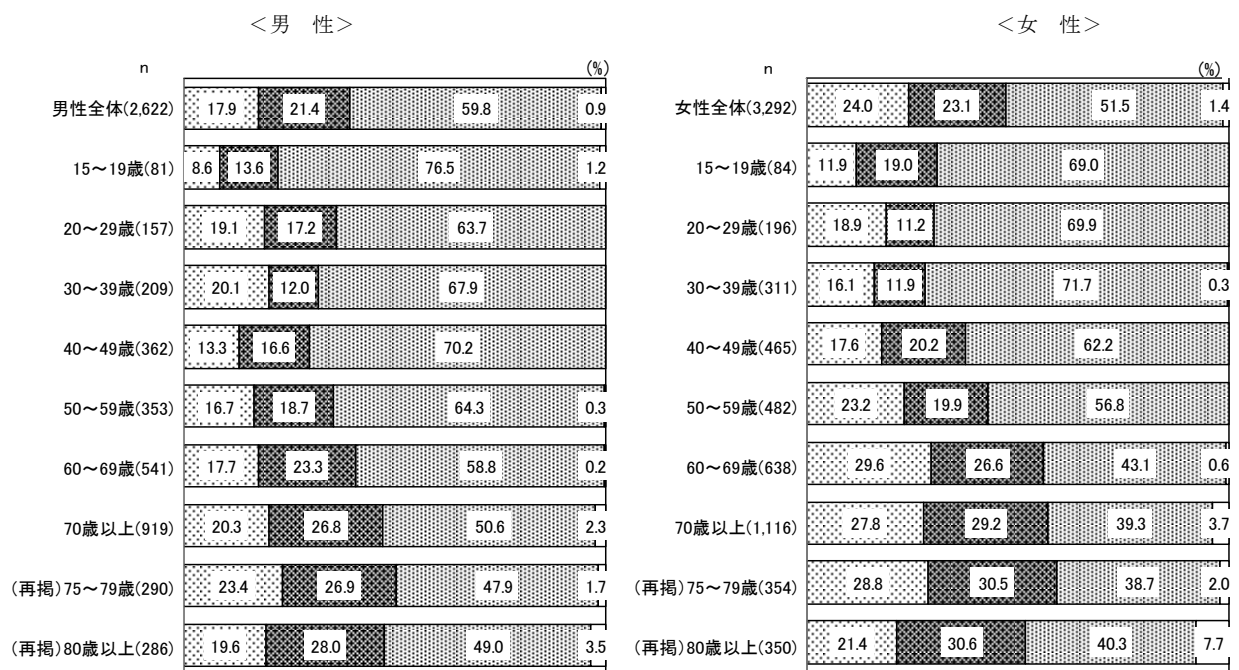


図12-2-2 ロコモティブシンドローム（運動器症候群）の認知度（性・年齢別）



過去の調査と比較すると、《認知している》は、平成25年度以降増加していたが、令和5年度ではやや減少している。（図12-2-3）

性別で過去の調査と比較すると、「内容を知っていた」は男女ともに令和3年度と比べて減少し、女性では令和3年度（26.0%）より2.0ポイント減少している。（図12-2-4）

図12-2-3 ロコモティブシンドローム（運動器症候群）の認知度（過去の調査との比較）

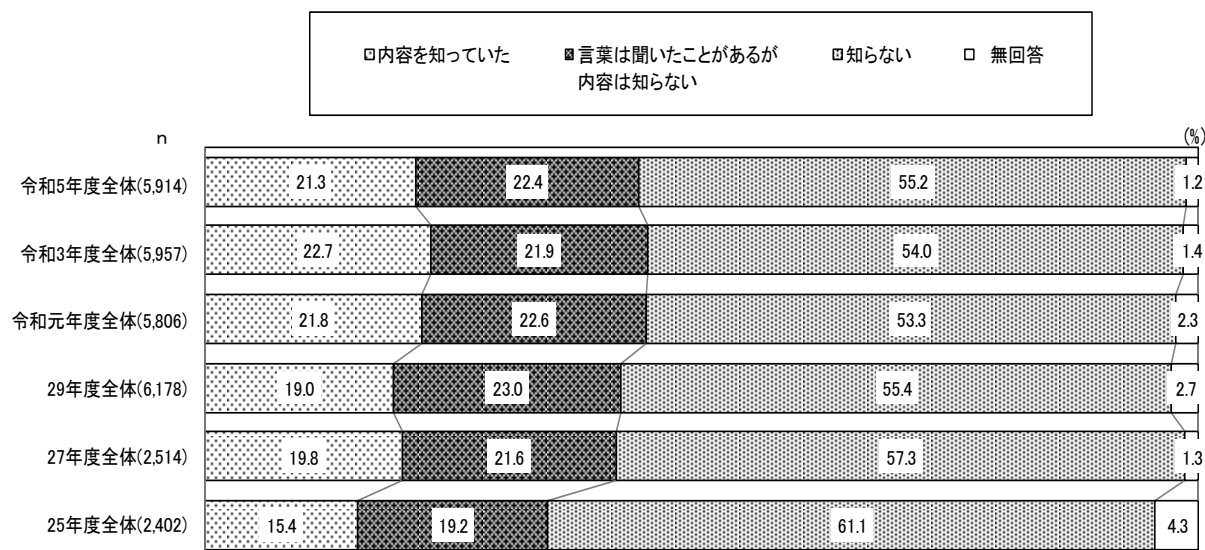
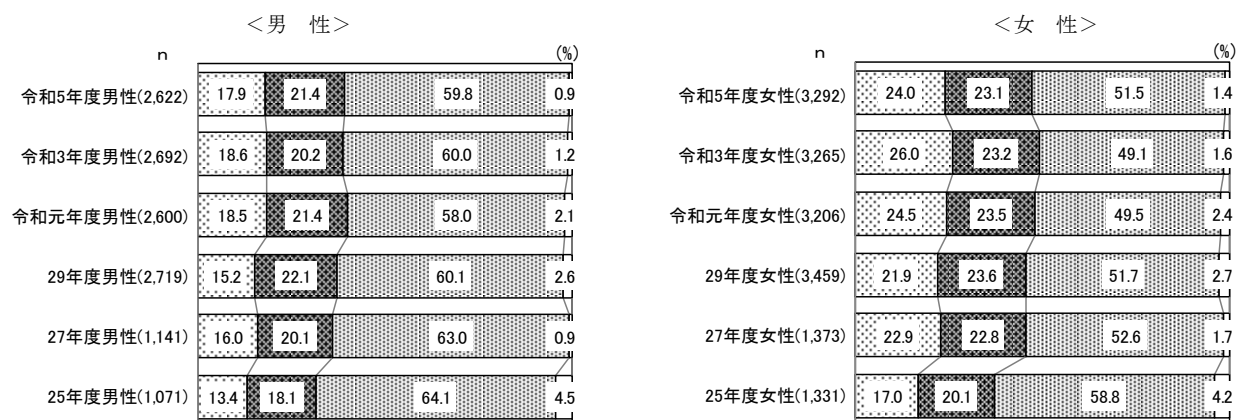


図12-2-4 ロコモティブシンドローム（運動器症候群）の認知度（過去の調査との比較・性別）



(3) 糖尿病性腎症の認知度

問42 糖尿病性腎症とは、「糖尿病により高血糖状態が長く続くことなどが原因で、腎臓の働きが悪くなる病気」の事です。あなたは、この内容を知っていましたか。(○はひとつ)
 ※ 人工透析をはじめの原因の約4割は、糖尿病性腎症が占めています。

全体では、「内容を知っていた」が36.2%、「言葉は聞いたことがあるが内容は知らない」が21.7%で、この2つを合わせた《認知している》は57.9%となっている。また、「知らない」は40.3%となっている。(図12-3-1)

性別にみると、「内容を知っていた」は、女性(38.4%)が男性(33.4%)より5.0ポイント高くなっている。(図12-3-1)

性・年齢別にみると、「内容を知っていた」は、いずれの年齢において女性が男性より高く、最も高いのは女性の60~69歳(40.4%)となっている。(図12-3-2)

図12-3-1 糖尿病性腎症の認知度(全体/性別)

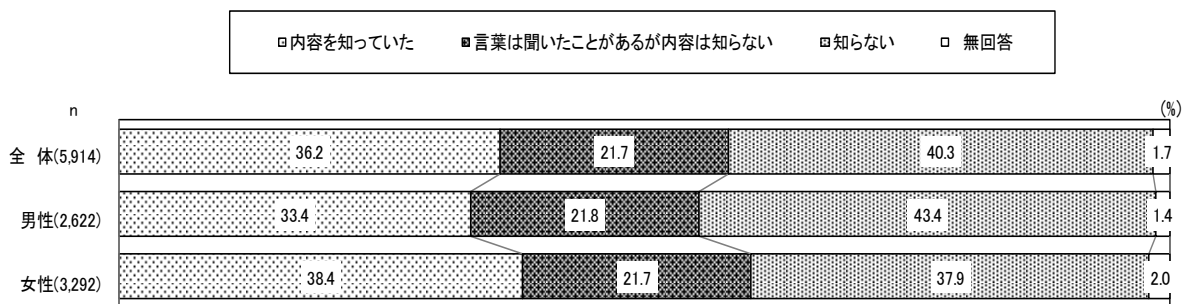
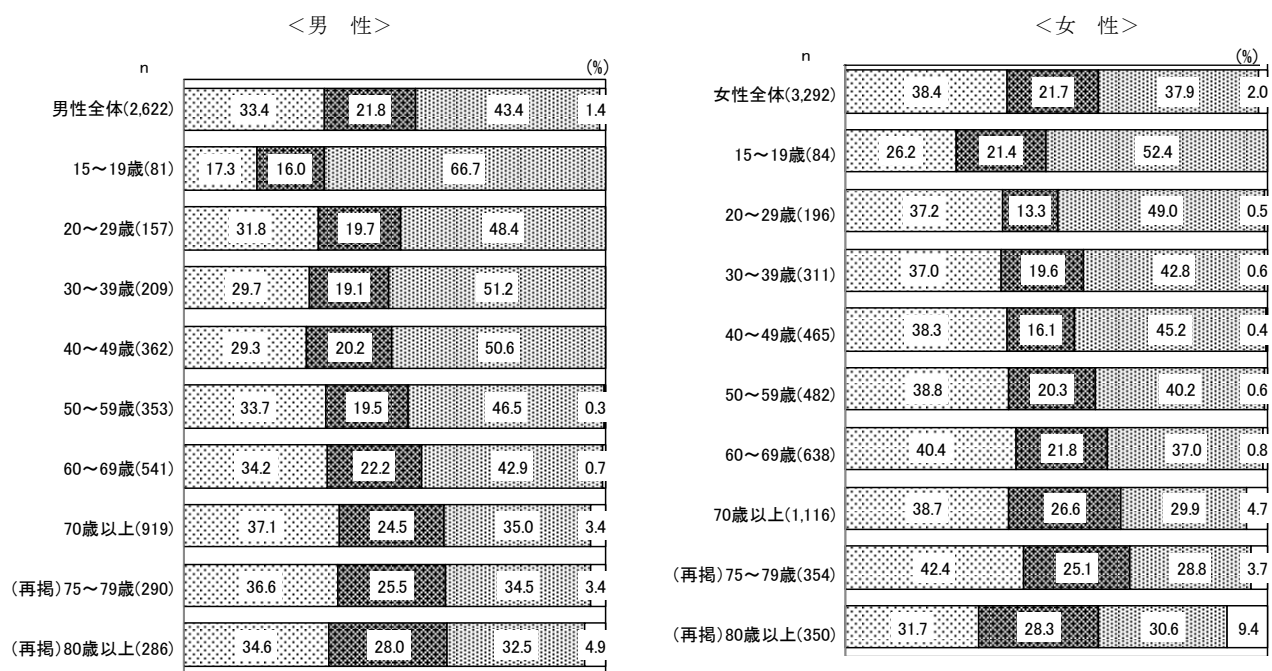


図12-3-2 糖尿病性腎症の認知度(性・年齢別)



過去の調査と比較すると、「内容を知っていた」(36.2%)は令和3年度(37.9%)と比較し、1.7ポイント減少した。また、「知らない」(40.3%)は、令和3年度(39.4%)と比べて同程度であった。(図12-3-3)

性別で過去の調査と比較すると、「内容を知っていた」は、令和3年度と比べて男女ともに減少した。(図12-3-4)

図12-3-3 糖尿病性腎症の認知度(過去の調査との比較)

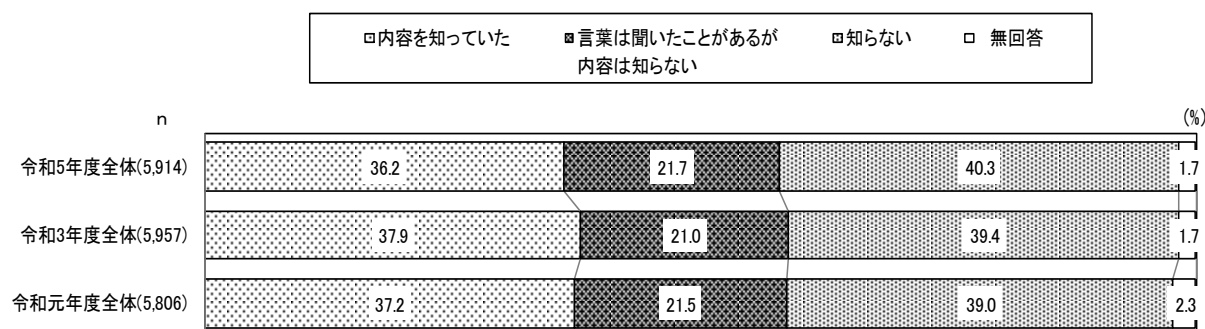
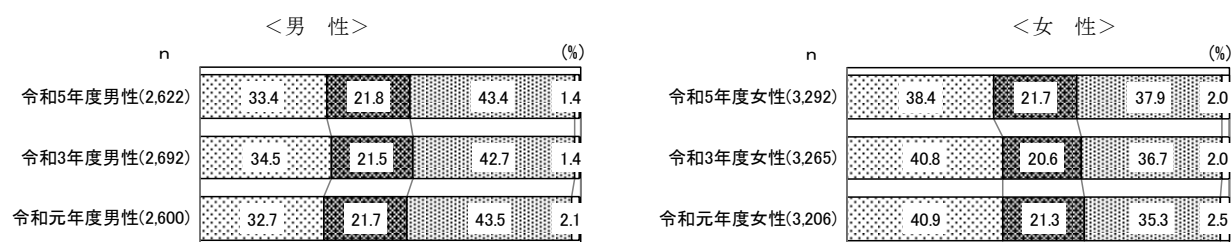


図12-3-4 糖尿病性腎症の認知度(過去の調査との比較・性別)



※平成25年度・平成27年度・平成29年度調査では、この質問をしていない。

(4) COPD（慢性閉塞性肺疾患）の認知度

問 43 COPD（慢性閉塞性肺疾患）とは、「たばこの煙を主とする有害物質が長期に気道に触れることによって起きる炎症性の疾患で、主な症状として咳・痰・息切れがあり、徐々に呼吸障害が進行する疾患」のことで、喫煙者の20%がCOPDを発症するといわれています。あなたは、この内容を知っていましたか。（○はひとつ）

全体では、「内容を知っていた」が29.2%、「言葉は聞いたことがあるが内容は知らない」が20.8%で、この2つを合わせた《認知している》は50.0%となっている。また、「知らない」は48.2%となっている。（図12-4-1）

性別にみると、「内容を知っていた」は、女性（30.5%）が男性（27.6%）より2.9ポイント高くなっている。（図12-4-1）

性・年齢別にみると、「内容を知っていた」は、男性では50～59歳（30.0%）、女性では50～59歳（34.6%）で最も高くなっている。また、女性の30～69歳では「内容を知っていた」が3割を超えて高くなっている。（図12-4-2）

図12-4-1 COPD（慢性閉塞性肺疾患）の認知度（全体／性別）

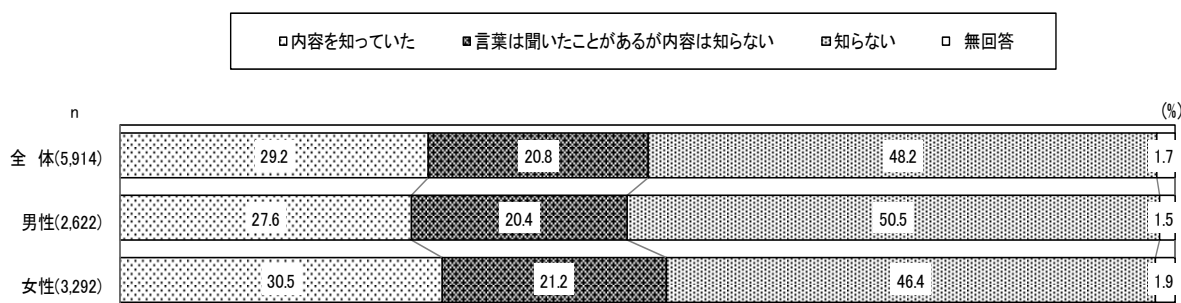
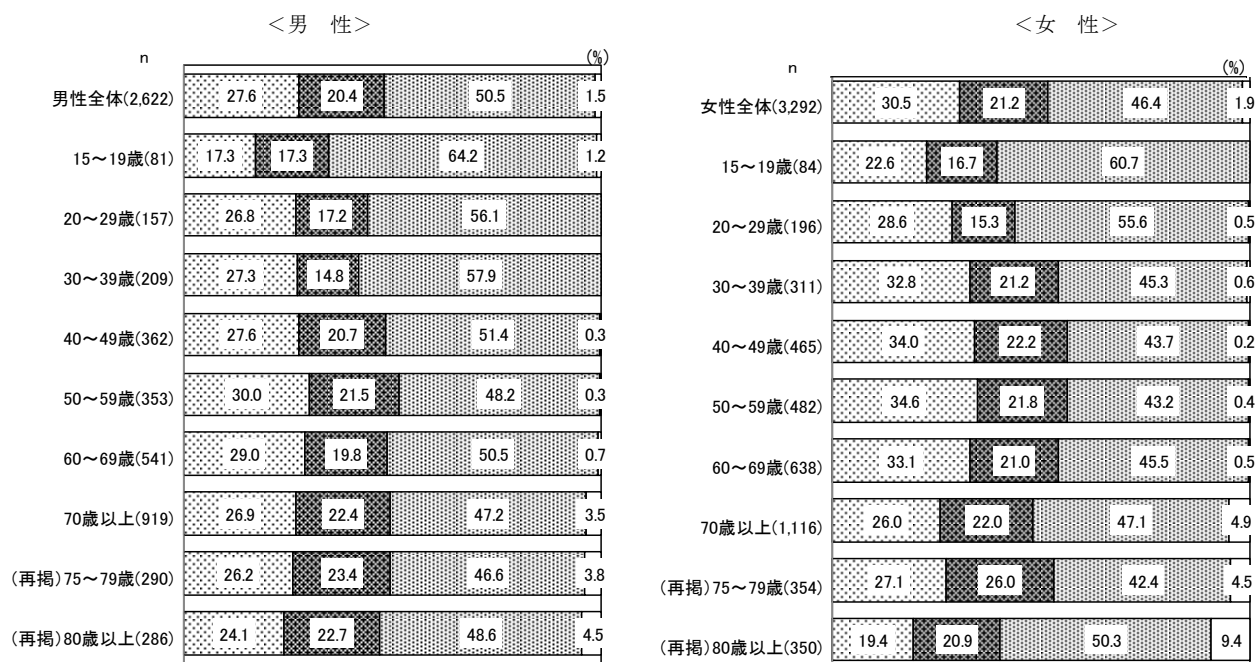


図12-4-2 COPD（慢性閉塞性肺疾患）の認知度（性・年齢別）



過去の調査と比較すると、「認知している」(50.0%)は令和3年度(50.7%)と比べて同程度であった。(図12-4-3)

性別で過去の調査と比較すると、男性では「内容を知っていた」は、平成29年度以降増加した。一方、女性では平成29年度以降増加していたものの、令和5年度で減少した。(図12-4-4)

図12-4-3 COPD(慢性閉塞性肺疾患)の認知度(過去の調査との比較)

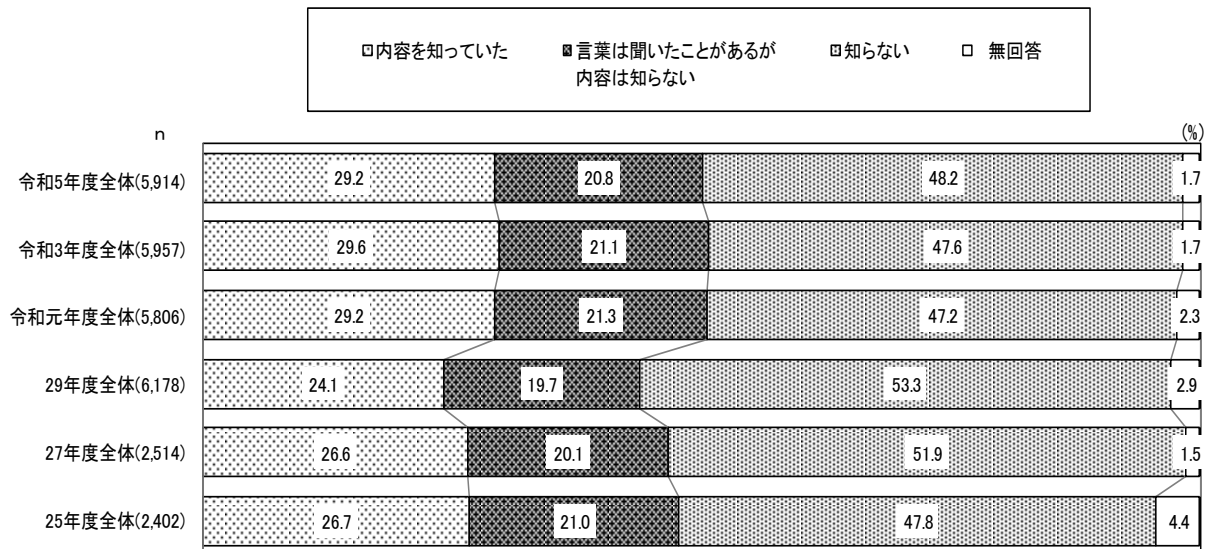


図12-4-4 COPD(慢性閉塞性肺疾患)の認知度(過去の調査との比較・性別)

